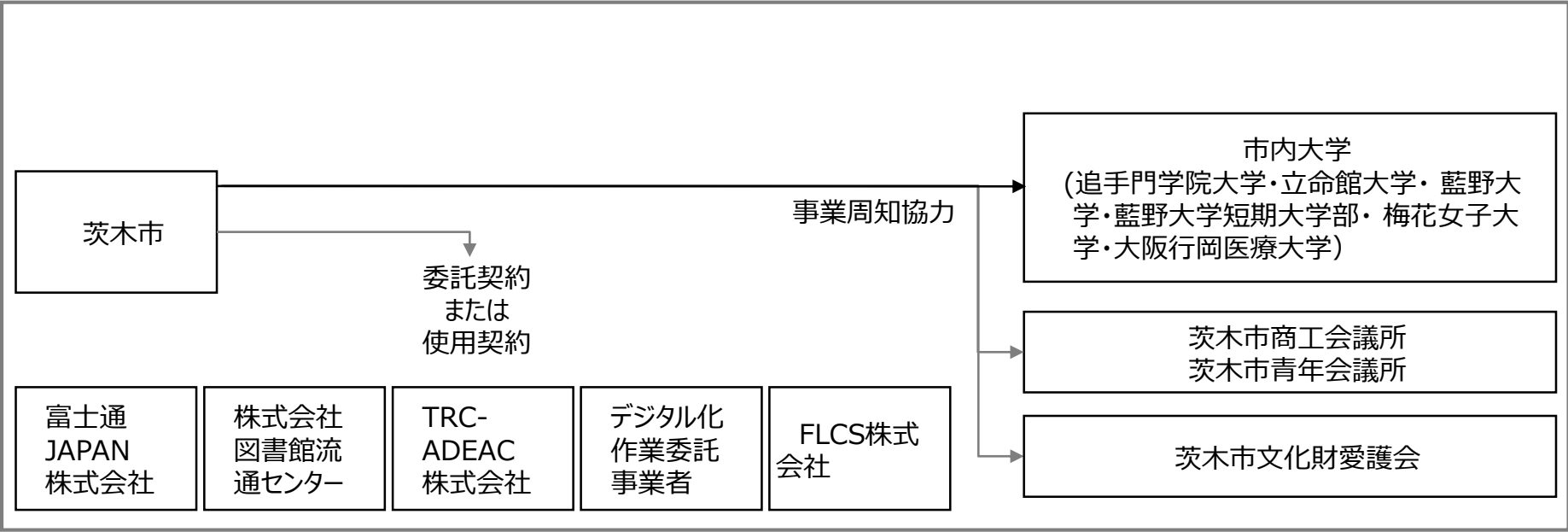


事業概要【図書館デジタル化推進事業】

自治体名	大阪府茨木市	人口	286,029人	事業費	42,954千円
事業概要	資料のデジタル化を図るとともに、図書館サービスのDX化を進め、市民の利便性向上につなげる。				
具体サービス	【①図書館蔵書検索システムの機能拡充】 図書館システムを更新のタイミングで、図書館資料検索時に、関連資料や試し読みが表示されるサービスを開始する。 【②商用データベースの拡充】 起業や企業経営に必要なデータベースを充実させ、地域経済の活性化につなげる。 【③郷土行政資料のデジタルアーカイブ】 郷土行政資料をデジタル化しHPで公開し、資料の保存性を高め、来館せずに調査研究できる環境を整備する。				
主なKPI	【アウトプット指標（活動指標）】 ①検索画面のアクセス件数 ②商用データベースの利用件数 ③デジタルアーカイブへのアクセス件数	【アウトカム指標（成果指標）】 ①試し読み資料の詳細画面へのアクセス件数 ②商用データベースを利用する市民の満足度 ③デジタルアーカイブを利用する市民の満足度			

実施体制



名称	役割
茨木市	- 事業計画の立案 - 契約締結をはじめとする事業全般の管理
富士通JAPAN株式会社	図書館システムのサービス提供事業者
株式会社 図書館流通センター	商用データベースの導入
TRC-ADEAC株式会社	デジタルアーカイブのサービス提供事業者

名称	役割
デジタル化作業委託事業者	行政資料のデジタル化作業
FLCS株式会社	システム機器リース業者
市内大学	周知物の設置・配布等
茨木市商工会議所 青年会議所 文化財愛護会	周知物の設置・配布等

交付金の具体的使途

経費項目	金額（単位：千円）
図書館システム拡充 仮想サーバー設計等	7,751
図書館システム拡充 パッケージ基本導入	739
図書館システム拡充 出口チューニング	1,936
図書館システム拡充 データ移行作業	3,812
図書館システム拡充 システムテスト	2,956
図書館システム拡充 公開系クライアント構築	2,006
図書館システム拡充 ファイル・WSUS.NW監視サーバー設定	1,918
図書館システム拡充 Web系サーバー構築	1,936
図書館システム拡充 ファイアウォール設計・構築	2,112
図書館システム拡充 セキュリティ監査	1,478
図書館システム拡充 システム基盤構築	1,601
図書館システム拡充 運用環境構築	533
図書館システム拡充 本稼働立ち合い等	4,505
図書館システム拡充 システムパッケージ(リース)	2,600
図書館システム拡充 サーバー及びネットワーク(リース)	3,242
商用データベースの新規導入 MieNa	418
商用データベースの新規導入 日経テレコン21	159
郷土資料のデジタルアーカイブ デジタル化作業	1,039
郷土資料のデジタルアーカイブ システム搭載費	2,069
郷土資料のデジタルアーカイブ システム使用料	144
経費合計	42,954

効果検証：アウトプット指標（活動指標）

KPI①	検索画面のアクセス件数	種別	アウトプット	単位	件
KPIの概要、測定方法	図書館ホームページの資料検索画面のアクセス件数。				
事業成果等の計測に適する理由	アクセス件数が増加することで、サービスが広く利活用されていると判断できるため。また、数値から事業効果を検証するとともに、運用後における機能の追加検討やさらなる利活用促進を図るため。2023年度末アクセス数5,591,218件。4%増を想定。新館開館需要が落ち着き、その減少分を見込み数値を設定。2025年度は2026年1月に新機能拡充のため、3か月分の増。				
2025年度末	2026年度末	2027年度末			
5,647,000	6,047,000	6,289,000			
2025年度末	2026年度末	2027年度末			
未計測					
KPIの状況	システムのログを調査することにより検索画面へのアクセス件数を調べているが、システム更新前のログデータが更新と同時に失われ、令和7年4月～12月の実績数値の確認ができなかったため。なお、令和8年1月～3月のアクセス件数(実績)は143万6537件となっている。				
今後に向けた取組	システム更新から3か月間の実績値を単純に12か月分に換算した場合、2年目の目標値との乖離が約30万件発生することになるため、システム更新に伴い追加された新機能を中心とする広報を、SNS、市の広報誌、チラシ等を活用して行い、更なる利用促進を図る。				

KPI②	商用データベースの利用件数	種別	アウトプット	単位	件
KPIの概要、測定方法	新規拡充する商用データベースの利用件数（のべ利用者数）を窓口での受付時にカウントする。				
事業成果等の計測に適する理由	利用件数が増加することで、サービスが利活用されていると判断できるため。2025年度KPIについては、おにクルの日経テレコン20件(2023年度の中央図書館での日経テレコンの利用件数30件であることから、新規導入となるおにクルぶつくぱーくは分館のため、20件と想定。)、MieNaについては中央図書館30件、おにクル20件と想定し、70件としている。2026年度以降は、年間30%増で設定。				
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
70		90		120	
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
241（達成）					
KPIの状況	市の広報誌への掲載やチラシの作成及び配布、図書館主催の講座でデータベースの使い方について説明する機会を設ける等の取組みがデータベース利用に対する心理的障壁を取り除き、KPIの達成に寄与したのではないかと考えている。				
今後に向けた取組	広報チラシの配布場所の拡大を検討し、情報のリーチの最大化を目指す。また、データベースの活用方法の想像ができないと利用意欲がわからないため、使い方に関する継続的な情報発信を行うことで更なる利用促進を目指す。				

効果検証：アウトプット指標（活動指標）

KPI③	デジタルアーカイブへのアクセス件数	種別	アウトプット	単位	件
KPIの概要、測定方法	アーカイブプラットフォームへのアクセス件数。				
事業成果等の計測に適する理由	アクセス件数が増加することで、サービスが広く利活用されていると判断できるため。また、数値から事業効果を検証し、今後の運用や広報の方法について検討する。他市で郷土行政資料を提供するデジタルアーカイブにおいて、年間アクセス数は500件程度である。また、2025年度は全資料公開が3月末のため、目標値は低く設定している。				
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
100		300		500	
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
1,162（達成）					
KPIの状況	図書館HPの上部にバナーを設置し、メインの動線を確保した。また、電子図書館及び図書館の資料検索画面から直接アクセスできるようにすることで複数の流入経路を確保することと利便性の高さを両立できたと考えている。				
今後に向けた取組	搭載資料が増えた際のお知らせや、広報誌へのお知らせ掲載、SNSの投稿などを通じて認知度を上げつつ、図書館主催の講座やレファレンスサービスの際に案内することにより、実際にアーカイブ資料に触れる機会を作ることによって利用者への浸透を図る。				

効果検証：アウトカム指標（成果指標）

KPI①	試し読み資料の詳細画面へのアクセス件数	種別	アウトカム	単位	件
KPIの概要、測定方法	SE作業により、試し読みサイトへのリンクがある資料の詳細画面にアクセスした件数をカウントする。				
事業成果等の計測に適する理由	試し読みのある資料の詳細画面へのアクセス件数の推移は、サービスが利用されていると判断できるため、利用満足度を図る指標となる。提携サイトの試し読みタイトル数は約4,700件あり、内本市図書館での所蔵を25%と仮定すると約1,170冊が試し読み対象資料となる。所蔵冊数とWebアクセス件数から、年間1タイトル約4回アクセスされている。該当の試し読みは、ベストセラーがほとんど対応していないため、1タイトル当たりの年間アクセス件数を2025年度1.2回（1月実装のため3カ月分）2026年度1.3回、2027年度1.5回を目標値とする。				
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
350		1,400		1,800	
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
未計測					
KPIの状況	サービス実装前に想定していた計測方法についての認識が事業者側と図書館側とで食い違っていた。それが実装後、計測を依頼した際に判明し、計測に必要な内容を精査した結果、計測するためにはSEによる追加作業を行う必要があるという結論に至ったため。				
今後に向けた取組	令和8年4月から計測を開始しているが、4月分の実績として803件のアクセスを確認しており、事前想定を遥かに上回っている。図書館主催の講座等でためし読み機能についての説明の時間を設けることで、更なるアクセス件数の増加を図る。				
KPI②	商用データベースを利用する市民の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	新規拡充する商用データベースの利用者へアンケートを実施し、利用目的や過去の利用の有無などと共に、10段階の満足度を調査し、アンケート回答数で割った平均値を得る。				
事業成果等の計測に適する理由	データベースを利用した際の満足度を知ることができ指標となる。				
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
7.0		8.0		8.8	
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
未計測					
KPIの状況	今回の対象となるおにクルぶっくぱーくの日経テレコン21利用者及び市場情報調査ナビMieNaの利用者に対してアンケートフォームへの誘導を行ったが、回答のハードルが高かったのか、回答を得ることができなかったため。				
今後に向けた取組	現在Logoフォームで回答してもらうように利用者にQRコードを配布しているが、利用を終えた後にわざわざアクセスする必要があることが回答を得られない一因となっている可能性があるため、対策としてアンケートの回答用紙を作成、利用開始の受付時に配布し、利用終了の声掛けの際に改めて記載してもらうようお願いする流れに変更する。				

効果検証：アウトカム指標（成果指標）

KPI③	デジタルアーカイブを利用する市民の満足度	種別	アウトカム	単位	ポイント
KPIの概要、測定方法	デジタルアーカイブのページ上にアンケートフォームへのリンクを作成し、利用目的や過去の利用の有無などと共に、10段階の満足度を調査し、アンケート回答数で割った平均値を得る。				
事業成果等の計測に適する理由	デジタルアーカイブを利用した際の満足度を知ることができ指標となる。				
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
5.5		6.0		6.5	
2025年度末		2026年度末		2027年度末	
6.2（達成）					
KPIの状況	古い郷土行政資料がメインコンテンツとなるため、デジタル化した際に不明瞭な点がないか等、デジタル化の事業者との間で綿密にやり取りを行った。また、TOPページについてもコンテンツが多くなりすぎないように利用が多くなりそうな項目に絞って表示を行っている。				
今後に向けた取組	今後、搭載資料数が増加していくが、現在の利便性を損なうことがないように資料の選定や登録データ作成の段階から情報の精査を行う。また、サイト自体についても検索項目の追加・削除、必要であればTOPページのレイアウト変更も含め、あらゆる可能性を検討しながら利便性の良さを高めていく。				